

第 533 回 例 会

25年2月15日

本日のプログラム

- ・ソング 「手に手つないで」
- ・卓話 クラブフォーラム IM実行委員会
- ・場所 ANAクラウンプラザホテル大阪 5階「ガーテンルーム」

次回(2月22日)のプログラム

- ・夜例会
- 時間 18時30分 ～
- 場所 ANAクラウンプラザホテル大阪 3階「飛鳥の間」

先週(2月8日)の例会報告

■会長の時間

【あなたがどんなものを身にまとってしようと、興奮しやすい女性のそばにピストルをおくものではない】

アメリカの漫画家、随想家であるJ・G・サーバーのことば。サーバーは、たくさんの「たとえ話」をつくっている。そのひとつ。あるとき、空を飛んでいる鳥をみて、ライオンがわしの翼がどうしてもほしくなった。で、わしに使いを出してきてもらった。洞穴に訪ねてきたわしに「オレのたてがみと引き換えに、きみの翼がほしいのだがねえ」といった。翼がないと飛べないからいやだとわしは断った。両者の間にいろいろやりとりがあって、わしもようやく承知する。ライオンは、ほんの少し近くに寄ってくれば、たてがみを先に渡すと申し出る。それで、わしか近づくと、ライオンは大きな脚で、パンチをくらわして、わしを地面に抑えつけた。こうして翼を奪ったライオンは、たてがみのほうは渡さなかった。わしはがっかりしたが、しばらくしてひとつの作戦を考えた。「翼があっても、君は、向うにある大きな岩のてっぺんから、とても飛べないだろうな」とライオンに誘いをかけた。すると、絶対にできると威張ったライオンは、愚かにもひっかかり、岩の頂上から身をひるがえした。が、身体が重すぎて、わしの翼では支えきれなかった。そのうえ、飛んだ経験などいちどもなかったの、真逆様に岩の下まで落ち、大きな音をたてて燃えあがった。わしはすかさずライオンに近づき、翼を奪いかえしたばかりでなく、たてがみを取りあげてしまった。ここまではわしの大勝利なのだが……ライオンのたてがみを頭と肩のまわりにつけたわしは、妻と住んでいる岩の上の巣に飛んでいながら、ひとつ妻をからかってやろうと考えた。

たてがみで、身体をすっぽりとおおったわしの夫は、巣の前に頭を突き出して、できるだけ恐ろしい声で「ウォー！」と吼えた。ところがこのわしの妻は、非常に興奮しやすい性格だったので、なにがなんだかわからなくなり、とにかく身を守らなければと、洋服ダンスの引き出しから急いでピストルを取ってくると、相手もしっかりみようとしなくて、いきなり撃った。あわれ、いたずら者の夫は射殺されたのである。ライオンと勤ちがいされて……。

いかにもアメリカにありそうな話である。

サーバーの教訓をまっぴかりでなく、女性とつきあう場合、その人が恋人であれ友人であれ、若くとも年齢が高くとも、男性としては、どのような性格の女性がよく理解してから行動したり、話したりしなければならない。

【来客紹介】 1名

【出席報告】

25年2月8日(第532回例会)				
会員総数	出席免除会員	出席会員	欠席会員	出席率
31名	2名	24名	5名	82.76%

【幹事報告】

〔メールBOXに配布〕

- 1) 第8回理事会報告
- 2) 横山パストガバナー卓話資料(2枚)

〔回覧資料〕

- 1) ローター手帳(次年度版)の予約申込

ニコニコ箱(2月8日)

秋山 千尋 = いよいよ来週IM5組の「インターシティミーティング」テーマが良いので他クラブから期待されています。頑張りましょう。

川上 大雄 = 大雪イヤですね。明日のゴルフやめようかな～

河田 英子 = パストガバナー横山様、ようこそいらして下さいました。お話し楽しみにしています。

菊 泰仁 = 横山パストガバナーの卓話を楽しみにしております。2/16IM 宜しく願いいたします。

森本 良嗣 = 今日は横山パストガバナー様、厳寒の中ご訪問下さり有難うございます。卓話楽しみにしておりました。

斧原 邦夫 = 横山パストガバナーようこそおいで下さいました。宜敷くお願い申し上げます。

鈴木 正明 = 寒いです。 かぜを引かないように気をつけましょう。

豊島 秀郎 = 寒いです。

和氣 勝海 = 横山パストガバナー、ご講話楽しみにしています。 宜しく願います。

【SAA報告】	ニコニコ箱	本日計 9000円	今年度合計 2990020円
---------	-------	-----------	----------------

卓話(2月8日)

「ロータリーの綱領」と「ロータリーの目的」について 横山 守雄 パストガバナー

本日、私は「ロータリーの綱領」と「ロータリーの目的」についてと云う演題で、少々堅苦しいお話をさせていただきますが、このロータリー定款第4条には、ロータリー活動のエッセンスが込められております。

なぜ私が、本件を、本日の卓話の題材に取り上げたかと申しますと、現在の「綱領」と云うタイトルで翻訳されている「クラブ定款第4条」は、新入会員や一般社会の人々にとっては、些か難解である、即ち、分かり難いと言われているからであります。現行「綱領」の主文と、第1条から第4条までの条文は、実は半世紀以前に翻訳されたもので、現代社会にマッチしない訳文になっているのではないかと云う意見がこれまでも多々ありました。

そこで、2008-09年度の日本ガバナー会において現行の翻訳にはどのような問題点があり、それらをどの様に変えたら、適訳となるだろうかと云う事になり、ガバナー会の傘下に「綱領等翻訳問題調査研究委員会」なるものを立上げました。そして全国から選ばれた7名のパストガバナーがその調査・研究の任務にあたる事になりました。

ところで、組織体としてのロータリークラブには、二つの法的な取り決めがあります。その一つは「クラブ定款」ですが、クラブ定款は国際ロータリーに加盟している世界の34000余りの全クラブが一様に、また絶対的に遵守しなければならないロータリークラブの基本的なルールが、この定款に込められております。

もう一つは「クラブ細則」です。クラブ細則は、それぞれのクラブが置かれた状況が各地域によって異なりますので、その細則規定は世界共通の「クラブ定款」で定められている基本的なルールを逸脱しない範囲内であれば各クラブの裁量で取り決めることが出来ると云うことになっています。私達ロータリアンがクラブ会員になる際には世界共通の「クラブ定款」と、各クラブが独自に定めた「クラブ細則」の両方について、全ての条文・条項を受諾しますと云う前提で入会が認められています。

その世界共通の「クラブ定款」の第4条として規定されているのが「ロータリーの綱領」です。ところが、RIの規定では、「ロータリーの文書は全て、英文を公式用語とする」と定められており、その英文をベースにフランス語、ドイツ語、スペイン語、日本語などの主要な外国語へ翻訳されています。そこで、日本のロータリアンにとって問題になりました事は、RIの公式英文と、それが日本語に翻訳された場合の和訳文の間に、解釈上、幾分かのブレがあると云う点でした。

「ロータリーの綱領」の英文の正式な原型は「The Object of Rotary」です。その「The Object of Rotary」の英文そのものは時代の変遷に伴って内容がかなり変わって行きました。その事を先ずお話しますと、1905年ロータリークラブの第一号店、シカゴRCが誕生した後の1906年に定められた「The Object of Rotary」は2項目だけでした。最初のシカゴ・ロータリークラブは会員間の商取引によって「会員自身の事業利益の拡大」を図ることを唯一の目的として設立され、そしてその為に必要な、「会員間の親睦」を第2項として付け加えております。

ですから、最初のロータリークラブが発足した当時は今日の様な職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕、そして、最近導入された新世代奉仕、と云ったような「奉仕活動の概念」は全くなかったわけです。しかしながら、1910年代になると会員間の「ビジネス上の相互扶助の理念」だけではクラブの発展に限界があるという意見が数多く出てくるようになり、いろいろな奉仕活動の概念が徐々に芽生えて参りました。そして、その後は幾多の論争や各クラブでの実際のクラブ活動を踏まえて、ロータリアン自身の職業倫理の高揚を目的とした職業奉仕や、地域社会の為に役立つ社会奉仕などがロータリー活動の重要な活動目的となりました。

現在の「Object of Rotary」の公式英文は1950年に定められたものですが、それから既に62年が経過しております。この62年前の公式英文は、現在の世界情勢に合わないのではと云う意見も出ておりますが、公式英文の内容の変更はその後もなされておられません。英文のクラブ定款の変更を行う場合は、規定審議会の審議手続きを経て、公式に採択されなければなりません。規定審議会は3年置きに世界の各地区より代表者1名と、国際ロータリーの役員が一同に集結して、「ロータリーの立法機関」として機能しておりますが、次の規定審議会は今年の4月にシカゴで開かれる事になっております。当地区からは、岩田PDGが地区代表として参加されます。

次に本題の「The Object of Rotary」の日本語訳ですが、これまでは「ロータリーの綱領」と訳されておりました。

しかしながら、「Object」という英単語は、皆さんがどの英和辞典をご覧になっても、「綱領」という和訳語はありません。「Object」の適訳は、「目的」です。「The Object of Rotary」は「ロータリーの目的」が適訳です。

日本のロータリーが戦後RIに復帰した翌年の1950年に「The Object of Rotary」は、一旦日本語に翻訳されましたが、その後1960年に現在の日本語訳に改定されております。しかしその改定作業に関する議事録が日本のRI事務局にも、どこにも残っていないそうです。その翻訳を担当された方は当時のお二人のRI理事とのことですが、その和訳文には実際にはいろいろな問題点があると、これまでも指摘されておりました。1950年から1960年の時代は、ロータリークラブの会員はごく限られた企業のトップリーダーや専門職の方で占められており「The Object of Rotary」の翻訳に当たっては、それなりの権威を持たせる為に「綱領」と命名されたのではないかとされておられます。

現在の綱領は題目以外の主文及び第1条から第4条の文章についても、いろいろな翻訳上の問題点がありますので、現在の「ロータリーの綱領」の翻訳文の全てについて見直しを行い、同時に現在の時代にマッチするような“分かり易い”「ロータリーの目的」、と云う翻訳文に変えて行くことという事に至った次第です。私は過去3年間、綱領の改定作業に関わって参りましたが、昨年末にその翻訳改定作業がやっと終わり、新バージョンの和訳文が完成しました。ここに至るまで、日本の全クラブを対象にしたアンケート調査や、翻訳の専門家、或いはノンロータリアン第三者のご意見も聴取致しました。そして最後の段階では日本のRI理事・諮問委員会と、RI本部の日本語・翻訳課の意見も拝聴して出来上がったのがこの新バージョンです。

新しい「ロータリーの目的」という翻訳文は、間もなく開かれますRIの規定審議会で採択されます立法案と共に、今後のRIの「手続き要覧」に織り込まれることになっております。2014年版「手続き要欄」の日本語の改定版は今年の夏以降に、皆様のお手元に届くこととなりますが、2014年の日本語版の「手続き要欄」の中の「クラブ定款第4条」は、これまでの「綱領」と云うタイトルが、「ロータリーの目的」と云うタイトルへ変わります。ですから日本での出版物、例えば毎月「ロータリーの友」に掲載されております「ロータリーの綱領」は「ロータリーの目的」というタイトルで掲載されることとなります。

新しい手続き要欄が皆様のクラブへ届きましたら、次年度のその時点で皆様の「クラブ定款」の変更が必要になります。「ロータリーの目的」という新しい改訂版をご覧頂きますと、皆様は恐らく「綱領」そのものが、随分分かり易くなったなあ、感じられるかと思えます。ここに至るまでには、各クラブ間、各ロータリアン、日本のRI理事諮問委員会、また担当委員会の委員の間でも、いろいろな論争が繰り返されて参りましたが、それでもロータリーでは最後は何となく纏まって行くものです。

皆様のクラブ内でも、活動が盛んになればなるほど会員間の意見は分かれることが結構あるのではないかと思います。そう云う時はいつも「寛容の精神」と云うロータリーの創始者、ポール・ハリスさんのお言葉を思いだして頂き、大らかなお気持ちで対応して頂きたいと思えます。それがクラブの発展と、自分自身を高めて行く礎石になるのではないのでしょうか。

以上



大阪ユニバーサルシティRC URL: <http://www.osaka-ucrc.org/> E-mail: ucrc@osaka-ucrc.org 創立: 2001年3月27日
事務局 〒530-0005 大阪市北区中之島5-3-68 リーガロイヤルホテル401号室 TEL: 070-5020-6459
会長: 斎藤清貴 幹事: 三宅一郎 会報担当: 大橋高志 例会: 毎週 月曜日 12:30~13:30 リーガロイヤルホテル

4つのテスト / 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか